不定期刊行　　第437号　2012.01.17

中信高校山岳部かわらばん

編集責任者　大西　浩
池田工業高等学校

池工山岳部新年初山行

新年最初の山行は、1月5日に戸谷峰と三才山に登った。前日より冬型が強まり、うっすらと雪化粧した静かな山に向かったのは、生徒1人、顧問1人。人数的には寂しいものであったが、身のある登山だった。8：05、三才山出合いの駐車場を出発。しばらくは沢沿いの送電線の監視道を進み、8:45には、道が沢から離れ尾根上の鉄塔へと向かう分岐に出た。ここから道に沿って監視道を行くか、それとも沢をそのまま詰めるか、生徒の関君に選択させる。「道なき道を行ってみたいです。」頼もしい返事が返ってきた。そこで、そのまま沢を遡上することにし、「ここから先は、ルートファインディングしながら先に行け」と、先頭を歩かせる。途中にはイノシシ、ニホンジカ、カモシカなどの動物の足跡が縦横無尽につけられてあり、この山の豊かさがわかる。もがくこと小一時間、沢の左股を登り詰め、9:40には稜線に出た。稜線は、膝下ほどの粉雪が気持ちよい。20分も登ると、戸谷峰（1629m）の頂上に出た。あいにく北アルプスはガスの中に隠れて見えないが、足下に広がる松本平は雪の街となり白く輝いて見える。「山はいいですねぇ。」関君の目が輝いている。

一休みした後、来た道を戻り、コルまで下り、ここから三才山方面へと縦走する。ここからも地図には登山道の記載がないので、読図をしながら進んでいく。マイナーピークを4つ越え、六人坊、さらには三才山へと稜線を辿っていく。最初は雪の上をおっかなびっくり歩いていた関君だが、歩くにしたがって次第に堂に入ってくる。11：40三才山に到着。コンパスで方角を出しておいて、それを頼りに雪の尾根を三才山峠目指してまっすぐ下ることを教え、実践させる。するとちゃんと峠に出た。当たり前のことであるのだが、生徒にとっては感動ものだ。三才山峠では、ラーメンを作って食べた。時折、強い風が下から吹き上げ、粉雪を舞い上げるが、そんなことはなんでもない。山で食べるラーメンはどうしてこんなに美味しいんだろう。しっかり腹ごしらえをした後は、しばらく林道を歩き、これまで辿った稜線の対斜面にあたる女鳥羽川の左岸の稜線に入り込む。ここは地図と登山道が大きくずれているので、やはり読図をすると面白い。雪で所々道が不鮮明なので、都度現在地を確認しながら下る。

下山すると林道の終点には鉄砲撃ちの集団が焚き火をしていた。途中で2発銃声を聞いたが、今日の獲物は鹿が1頭とか。こんな時期に二人がとんでもないところから現れたのでビックリしたようだった。時には里山歩きもいいものだが、撃たれるのだけはごめんだと思った。

信高山岳会、南信高体連合同木曽駒研修登山

我が信高山岳会の新年会兼総会を、今年は豪華に山上のホテルで行なった。中ア千畳敷ホテルがその会場である。この時期はお客が少ないからか、菅の台からの往復のバス、ロープウェイ代に1泊2食の宿泊代込みで何と12000円(2月はさらに安く11000円！）というちょっと考えられない格安料金のプランを見つけてきたのは久根さんだった。

せっかく千畳敷まで行くのだからと、会員有志で木曽駒登山を計画した。合せて久根さんが南信高体連登山専門部の先生方にも声を掛けて、研修会をタイアップして行なうことにした。そんなわけで、登山組は信高から松田、重田、杉山、沼田、久根、塩川、小生の 7 名、南信高体連から竹内（飯田工業）、板屋（飯田風越）の 2 名が参加するという大部隊になった。7 時半に菅の台の駐車場に集合してバスを待つ。始発のロープウェイで遭対協も一緒に上がるという。見れば駒峰山岳会の堺澤清人さん（1964 年ギャチュンカンの初登頂者）がそのメンバーの一人。76 才の今も相変わらず現役、お元気である。一番のバスに乗り込んで、しらび平まで移動し、ぎゅうぎゅう詰めのロープウェイに乗り込んだ。雲一つない快晴の天気の中、あっという間に千畳敷に到着。

早速遭対協に登山届けを提出し、情報を仕入れる。堺澤さんによれば、今年の雪は例年の半分か１／３程度だという。ルート上の注意などを聞いた上で、足回り、その他の準備をして 9:45 に山荘を出発する。高体連の研修会ということで、久根さん（南信高体連登山専門委員長）から、講師を頼まれたので、信高の雪訓も併せて僕がリーダーとなって仕切ることになった。信高会員も含め基本的には高校教員が対象なので、「生徒引率の観点でどうすれば安全な登山ができるか」ということを念頭において研修会・登山を行った。まず、カールに入る前にビーコンについて説明とチェック。続いて雪についての説明と、弱層テストを実際にしてみる。その上で、掘った穴にザックを埋めて、プローブで感触を試してもらった。実際にプローブを使ったことのない人もいたので、ザックからの反発を覚えてもらうことは有効であった。弱層テストの結果はここ数日新雪が何回かにわたって積もっており、注意すべき状況であると判断されたが、ルートを選び、行動に注意しながら登ることにした。

小生が先頭に立ちしばらくはワカン隊が先行し、八丁坂まで登る。11:20、ワカンをアイゼンに履き替えて登り、11:55 には乗越浄土に到着。やはり稜線の風は半端ではない。しばらく休憩し、ここにワカンをデポし、頂上を目指す。ここまで来るのに、杉山さんの体調がすぐれないようで、上半身が動かないということだった。小屋陰で休んだ後出発、吹きさらしの稜線を暫く進むと、後ろから久根さんが「やはり杉山さんのペースが上がらないので、二人で下山する」と伝えてきた。後で話を聞いてみると、強風下鼻が真っ白になり凍傷寸前だったとのこと。恐らく体調不良で低体温症になっていたのではないかと想像される。結果的には、早い段階で風のない安全地帯に下ったので事なきを得た。残りのメンバーは 12:30 に中岳を経て、12:50 には木曽駒山頂に到着。風は時折 10m を越すが、周囲は雲一つない快晴で 360 度の眺望を楽しんだ。頂上滞在はおよそ 15 分、13:30 には宝剣山荘（乗越浄土）に戻った。

14:00、先行して下った久根さん、杉山さんとも合流し、伊那前岳への尾根の下部、日だまりの安全地帯に出てロープワークの研修を行った。松田さんと久根さんに先生役モデルをお願いし、小生が解説をするというスタイルで、およそ１時間、クライミングのシステムならびにフィックスドロープの固定と通過を研修した。松田、久根の二人とは昨夏ヤズィックアグルでさんざんロープを繋いだ仲、掛け値なしのザイルパートナーであり、僕が意図した通りに動いてくれるので極めて効率よく研修が行えた。要は経験の積み重ねなのだ。こうして研修ならびに登山を終えて、16:10 ホテルに到着すると、後発で信高山岳会の総会と新年会に駆けつけた勝野、高橋、飯沼、福澤の各氏が待っていた。あとはホテルでぬくぬく。まあたまにはこういうのんびり山行もいいもんだ。